

# 東北復興日記



142

「ベテランママの会」は震災直後の二〇一一年四月に福島県南相馬市で立ち上がりました。想像を絶する修羅場と化した被災地のあられもない姿に、これからは心が病む人が増えるだろうと察し、まずは「傾聴」のボランティアを考えました。小さな子どもを持つ若いママや子どもたち、高齢者のサポートをするのに

ベテランママの会代表  
番場さち子さん



## 悩み聞くサロンの役割

は、子育てが終わった私たちの世代が一番動きやすいのではないかと、「誰かがやらねば」の精神で突き動かされま

した。南相馬市には、市立総合病院が特例で研修医受け入れ病院に選定されたこともあり、若い医師やボランティアの方々がたくさん入ってきています。会の事務所が駅前のバス停前であることも幸いして

か、事務所にはたくさんの方がおいでになり、朝から晩まで客人が途絶えない日も少なくありません。写真。お茶はもちろんのこと、ご飯を食べ

てお帰りになる方もたくさんいて、さながらサロンのような働きをしています。私たちは、ただの市民団体で、任意で思いついたことを思いつくままに活動していた団体でしたが、先日「日本復興の光大賞」を受賞させていただいたこともあり、ようやく重い腰をあげてNPO化することを決心しました。

なくさないでね」とありがたい言葉もいただきますので「サロン」の活動も重要です。

また被災地ならではの悩みも抱えていますので「相談室」としても稼働しています。今までしてきたことを継続することが重要だと考えています。先月より始まった「駅マエ保健室」も好評です。こちらは医療関係者からの講話を聴いた後、身近な相談会となり、病院では聴けな

この連載は、東京のNPO法人JKSKと、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結核プロジェクト」の協力を得て掲載しています。